

平成 21 年度看護学部特別シンポジウム開催にあたって

看護学部では、2006年の開学部以来、毎年補完代替医療（Complementary Alternative Medicine, 以下 CAM）や補完代替療法（Complementary Alternative Therapies, 以下 CAT）に関する講演会を開催してきた。

平成 21 年度は、佐久大学の尾崎フサ子氏のご尽力で、群馬大学、日本赤十字看護大学、新潟大学、本学の 4 大学で、CAM/CAT の第一人者であるミネソタ大学看護学部名誉教授の Mariah Snyder 博士を招聘した講演会開催の機会に恵まれた。コンプリメンタリーセラピーに関する歴史や種類をはじめ、看護師が臨床にセラピーを取り入れる際の注意点等をわかりやすくお話し頂いた。

参加者からも大変好評で、コンプリメンタリーセラピーを実施したいと考える日本の看護職者にとって、貴重な講演内容であるとする。

そこで、本稿では平成 21 年度看護学部特別シンポジウムのプログラムと共に、博士が基調講演で用いられたスライドに日本語訳を付けたものを講演の記録として残すこととした。

なお、明治国際医療大学誌への Snyder 博士の講演スライド掲載にあたっては、日本の CAM/CAT の発展という観点から、博士よりご快諾頂いた。

<平成 21 年度看護学部特別シンポジウム>

これからの看護—看護実践の場で活かす補完代替療法—

開催日時 : 2009 年 9 月 6 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 30

場 所 : 京都市アバンティホール (アバンティ 9 階)

主 催 : 明治国際医療大学看護学部

後 援 : 京都府, 社団法人 京都府看護協会

<平成 21 年度看護学部特別シンポジウム実行委員>

【シンポジウム通訳】 浅野敏朗, 五十嵐稔子

【発表原稿・スライド翻訳】 浅野敏朗, 五十嵐稔子, 徳重あつ子

【実行委員】 種池禮子, 小山敦代, 榎本妙子, 山本明弘, 永島すえみ, 夏山洋子, 山本美輪, 松本賢哉, 徳重あつ子, 大籠広恵, 守口絵里, 柴田早苗, 林朱美, 中島真由美

平成 21 年度 明治国際医療大学看護学部特別シンポジウム開催にあたって

近年の「癒し」や「統合医療 (Integrative Medicine)」、 「補完代替療法 (Complementary & Alternative Medicine)」への関心・期待の中で、看護界では自然治癒力を高める癒しや看護独自の介入へのニーズが高まっています。特に、統合医療を支える補完代替療法における看護の可能性が期待されます。本看護学部は開設 4 年目を迎えました。今回は、国際的第一人者の Dr. Snyder を招聘し本学の特徴を活かした特別シンポジウムを開催します。

プログラム

- 12:30 受付
司会：梶本 妙子（明治国際医療大学看護学部）
- 13:00 開会挨拶 明治国際医療大学学長 中川 雅夫
- 13:05 基調講演
コンプリメンタリーセラピー：看護独自の新たな挑戦
講師：Dr. Mariah Snyder（ミネソタ大学看護学部名誉教授）
座長：種池 禮子（明治国際医療大学看護学部長）
- 14:25 休憩：楽器演奏
フルート：續田 尚美（明治国際医療大学看護学部学生）
クラリネット：中村映里奈（同志社女子大学音楽科学生）
- 14:40 シンポジウム
テーマ：看護実践の場で活かす補完代替療法
座長：種池 禮子・小山 敦代（明治国際医療大学看護学部）
看護で活かす鍼灸治療とツボ療法—緩和医療における鍼灸治療—
福田 文彦（明治国際医療大学鍼灸学部）
続発性リンパ浮腫の予防のためのセルフケア指導
赤澤 千春（京都大学大学院医学研究科）
Mariah Snyder からのメッセージ—看護独自の介入—
尾崎フサ子（佐久大学看護学部）
- 特別発言 Dr. Mariah Snyder
- 16:30 閉会

基 調 講 演

Complementary Therapies: New Challenges for Old Therapies コンプリメンタリーセラピー：看護独自の新たな挑戦



Mariah Snyder PhD, RN

Professor Emeritus, University of Minnesota School of Nursing Minneapolis, MN

マラヤ・スナイダー博士

(ミネソタ大学看護学部名誉教授)

座長：種池 禮子 (明治国際医療大学看護学部長)

【略歴】 Mariah Snyder 博士. ミネソタ大学看護学部名誉教授, 看護師.

生涯を通して, 看護独自の介入と補完療法に携わってこられました. 博士のご研究は, 慢性疾患の人々のストレス軽減や, 高齢者, 特に認知症を持っている人々の健康と幸福を促進することにおいて, 補完療法の効果に焦点を合わせておられます. 博士はミネソタ大学の看護学博士課程の老年看護学分野のプログラムを発展させた指導者であり, 同じくミネソタ大学の Center for Spirituality and Healing (スピリチュアリティ & ヒーリングセンター) の創始者の一人として, そのセンターの大学院の多分野副専攻科目の制定も行っておられます.

また, 博士は女性達の矯正施設でのボランティア活動において, 補完療法を用いられたこともあります. 目下の博士のボランティア活動は, 市内の貧困居住地から来る学生達のための大学予備校であるミネアポリスのクリスト・レイ・イエズス高校の図書館を作り上げることです.

つい最近, Snyder 博士と Ruth Lindquist 博士は「*Complementary/Alternative Therapies in Nursing* (看護における補完代替療法)*」の第6版の執筆を終えられたところです.

*アメリカ, 日本では2009年11月に発売となる予定です.

Abstract: The presentation will provide an overview of health systems other than Western biomedicine and how a number of the therapies from these systems have become a part of an integrated health care system under the term, *complementary therapies*. Therapies from the four National Center for Complementary/Alternative Medicine (NCCAM) categories and how these are used in nursing will be described. Challenges nurses and other professionals encounter in using these therapies will be explored. These challenges will be summarized with emphasis placed on how these impact nurses using complementary therapies.

要旨: プレゼンテーションでは, 西洋の生体臨床医学以外のヘルスシステムについて, そして, またこれらの治療法がいかにして補完療法という名の下で統合化されたヘルスシステムの一部になってきたかについて, 概要を示します. 次に, 国立補完代替医療センター (NCCAM) の4つのカテゴリーにおける療法と, これらを看護で使用するための方法について述べていきます. そして, 看護師と他の専門家がこれらの療法を用いて遭遇する挑戦すべき課題を探っていきたいと思います. これらの課題については, それが補完療法を使用する看護師にどのような影響を与えるかという点を強調しながら, 要約していく予定です.

シンポジウム

看護実践の場で活かす補完代替療法

座長：種池 禮子・小山 敦代（明治国際医療大学看護学部）

看護で活かす鍼灸治療とツボ療法—緩和医療における鍼灸治療—

福田 文彦（明治国際医療大学鍼灸学部）

【略歴】 1988年明治鍼灸大学卒業，1991年明治鍼灸大学助手，2002年同講師，2008年より現職。2006年からは大阪大学大学院生体機能補完医学講座特認研究員。看護関係では，1998年より京都市立看護短期大学，2008年より愛知県立看護大学（がん性疼痛看護認定看護師教育課程）の非常勤講師。

専門は，緩和医療における鍼灸治療，ストレス疾患に対する鍼灸治療の臨床及び基礎研究。

【要旨】 鍼灸医学では，人の心と身体は常に一体となって変化（心身一如）すると考え，その作用機序は身体が持っている自然治癒力の賦活であるとともに，薬物を使わない非薬物療法である。鍼灸治療の診療・治療過程では患者の身体によく触れる（身体感覚を通してのコミュニケーション）。鍼灸刺激による治療効果に加えて，この安心・安全で十分なコミュニケーションがとれた治療空間と時間が，身体的苦痛のみでなく，精神的苦痛を緩和させる。

緩和医療における鍼灸治療は，補完医療として行われるが，疾患や患者の状態により適否は異なるため患者ごとでの検討が必要である。効果が期待できる主な症状は，疼痛，手術や化学療法に伴う悪心・嘔吐，口腔内乾燥，血管運動症状（ほてり）などであり，イギリスやアメリカの統合腫瘍学会では，がん患者に対する鍼灸治療のガイドラインも作成されている。

補完・代替医療は，看護師に「実践できるもの」と「実践できないもの」に分類されるが，「できないもの」に対しては，患者さんの相談相手になれる知識が必要であり，「できるもの」に対しては，適応と限界，方法と注意点を理解して実践することが可能である。鍼灸治療は，看護師には実践できないものであるが，鍼灸治療で用いる経穴（けいけつ：ツボ）をタッチケアの中に取り入れることは，看護師にも実践することができる。また，看護師が指導することにより家族や患者本人のセルフコントロールとして行うことも可能である。

本シンポジウムでは，緩和医療，特になん治療における副作用に対する鍼灸治療の効果を上げ，その役割と効果を発表する。この発表が皆さんの鍼灸治療に対する理解とツボを応用したタッチケアに結びつけば幸いである。

続発性リンパ浮腫の予防のためのセルフケア指導

赤澤 千春（京都大学大学院医学系研究科）

【略歴】 京都大学医療技術短期大学部卒業後、京都大学医学部付属病院に勤務。その後、副師長、師長を経て、京都大学医療技術短期大学で教員となる。医学部保健学科への改組後大学院も開設され、現在人間健康科学系専攻クリティカルケア看護学分野で准教授をしている。

【要旨】 リンパ系は動脈系、静脈系と同じ循環系に含まれる。循環は細胞に動脈系を使い酸素と栄養を供給し、不要になった老廃物や水分を静脈系とリンパ系から回収するシステムである。静脈系は約90%の回収をし、残り10%をリンパ系が回収する。1日のリンパ系が回収する老廃物や水分は2～4Lになる。何らかの原因でリンパ系に障害が出た場合、回収されない老廃物や水分が組織間質に貯留する。この状態がリンパ浮腫である。続発性リンパ浮腫は子宮がん、乳がんの手術でリンパ節を切除することで発症するリンパ浮腫である。この続発性リンパ浮腫は患者にとってQOL低下をもたらす最大の原因となっている。そして一度発症した場合、生涯それと付き合い続けなければならない。この続発性リンパ浮腫への画期的な治療法はなく、ドイツのフェルディ式など複合的理学療法などで対応しているのが現状である。そこで、大切なことはリンパ浮腫が発症しないように日常生活から心がけることである。リンパ系の障害であるリンパ浮腫の予防及び改善は日々の継続が最も重要であり、患者の努力に帰するところが大きいいため、患者が続けてセルフケアが行えるように、その観点からスキンケアとリンパマッサージ法を述べたい。

Mariah Snyder からのメッセージ—看護独自の介入—

尾崎フサ子（佐久大学看護学部）

【略歴】 学歴：1965年国立東京第一病院附属看護学院卒業，1981年明治学院大学文学部英米文学科卒業，1983年ミネソタ大学看護学部看護学修士課程修了，2002年博士（医学）の学位授与（新潟大学）。**職歴：**1965年～1974年まで，国立東京第一病院（現．国立国際医療センター）就職．消化器外科，婦人科，内科，整形外科，脳外科，神経科に勤務．1968年～1970年ニューヨーク大学および Grace Hospital（デトロイト）で研修．

【要旨】 Dr. Snyder の著書「Independent Nursing Interventions」を手にした時，非常に新鮮な感動を覚えました．それは，新しい看護技術が書かれていたからではありません．日頃実践している看護が書いてあったからでした．例えば，痛いところをさする，しっかり患者の話に耳をかたむける，それ自体が看護だということです．本からはそれだけではありません．それぞれの介入に「背景」「定義」「科学的根拠」「介入」「技術」「効果の測定」「使用」「注意事項」さらに「研究課題」が記載されていることでした．日本のナースに自分たちの看護に自信を持ってもらいたく翻訳を思い立ち，出版しました．Independent Nursing Interventions（看護独自の介入）は第3版から Complementary Alternative Therapy in Nursing（看護における補完代替療法）となりました．

1999年新潟大学保健学科の4年課程設置時に，補完代替療法を看護療法と命名して演習および実習に取り入れました．演習は3年次前期に組み入れ，演習内容は最もベッドサイドで活用できると判断した項目を取り上げました（私見です）．それらは積極的傾聴，ナラティブ・アプローチ，回想療法，マッサージ，指圧，意図的タッチ，漸進的リラクゼーションです．

演習後のAさんからは，「人の手ってすごいなあー」と言う感想やBさんの「看護療法演習は知っていて得する技術・知識が沢山……．知っていなくともナースとして働けると思いますが，この技術・知識は患者の精神的な面，患者理解にとっても役立つものとなると感じました．……」．

ここでは割愛させていただきますが，実習時にも学生は看護療法を活用したすばらしい看護体験をしていました．

私の看護教育は Independent Nursing Interventions（看護独自の介入）の1冊からはじまりました．

Complementary Therapies: New Challenges for Old Therapies

Mariah Snyder PhD, RN
Professor Emeritus, School of Nursing
University of Minnesota

Nursing

- ◆ Tapestry of care
 - Physical
 - Psychological
 - Spiritual
 - Social
 - Cultural
- ◆ ケアの複雑性 (多面性、多重性)
 - 身体的
 - 心理的
 - スピリチュアル、霊的
 - 社会的
 - 文化的

Old Therapies 旧治療法

- ◆ Western biomedicine
 - Began middle of 19th century
 - Rene' Descartes: separation of body and mind
 - Rapid changes in 20th century had great impact:
 - ◆ Pharmacological agents
 - ◆ Technology
 - ◆ Surgical techniques
- ◆ 西洋医学
 - 19世紀中頃から発達
 - デカルト哲学: 身体と精神の分離
 - 20世紀の急速な科学技術の進歩の大きな影響
 - ◆ 医薬品の開発
 - ◆ 医療機器の発達
 - ◆ 外科的技術の進歩

Modern Nursing 近代看護

- ◆ Florence Nightingale
 - "Put patient in the best possible position so that nature would promote healing"
 - Suggested therapies to use:
 - Music
 - Environment
- ◆ フローレンス・ナイチンゲール: 「患者の環境を可能な限り最高のものとし、自然治癒力がより良く働くようにする」ことの重要性を説く
- ◆ ナイチンゲールが提案した療法:
 - 音楽の使用
 - 快適な環境

Ayurvedic Medicine アーユルベーダ医学

- ◆ Philosophy: interconnectedness of all things in the universe
- ◆ Many therapies including
 - Herbal preparations
 - Meditation
 - yoga
- ◆ 哲学: 宇宙の中にある全てのもののつながり、相互関連性、相互依存性
- ◆ 様々な療法:
 - 薬草の調合・投与
 - 瞑想
 - ヨーガ



Traditional Chinese Medicine (TCM) 伝統的中国医学 (TCM)

- ◆ Qi (energy) is key component; flows through meridians
- ◆ Many therapies including
 - Acupuncture and acupressure
 - Herbal preparations
 - QiGong
 - Many forms of massage
- ◆ 気 (エネルギー): 中核的概念、経絡の中を流れている
- ◆ 様々な療法:
 - 鍼療法、指圧
 - 薬草の調合・投与
 - 気功
 - 多種類のマッサージ



Indigenous Health Care 先住民族の健康ケア



- ◆ Philosophy: harmony within person and with universe
- ◆ Therapies include
 - Herbal preparations
 - Talking circle
 - Hands on therapies
- ◆ 哲学: 人間の、心身の内的調和&宇宙との調和
- ◆ 療法は以下の内容を含む:
 - 薬草の調合・投与
 - お話をする集い
 - 療法における手の活用

Complementary Therapies 補完療法

- ◆ Definition: A group of health care systems, practices, and products that are presently not part of conventional medicine (Western biomedicine) (NCCAM, 2009)
- ◆ 定義: 「現代の西洋医学に含まれない健康ケア・システム、実践およびその成果」 (国立補完代替医療センター、2009)

Use of Complementary Therapies 補完療法の利用

- ◆ United States: 44-88%
(Ness et al, 2005; Oldenick et al., 2000)
- ◆ Japan: 50-76%
(Hori et al, 2008)
- ◆ アメリカ合衆国: 44%~88%
(Ness, et al., 2005; Oldenick, et al., 2000)
- ◆ 日本: 50%~76%
(Hori, et al., 2008)

NCCAM Categories for Complementary Therapies

国立補完代替医療センターによる
補完療法の分類カテゴリー

- ◆ Systems (Ayurvedic, TCM, Indigenous, homeopathy)
- ◆ Mind-Body (music, journaling, prayer)
- ◆ Energy (healing touch, QiGong, Reiki, magnets)
- ◆ Body-based and Manipulative (massage, exercise, Tai Chi)
- ◆ Biologically based (herbs, essential oils)
- ◆ 体系的療法 (アーユルベータ、伝統的中国医学、先住民族の療法、ホメオパシー)
- ◆ 心身療法 (音楽、日誌、祈り)
- ◆ エネルギー療法 (ヒーリング・タッチ、気功、レイキ、磁石)
- ◆ 身体&手技療法 (マッサージ、体操、太極拳)
- ◆ 生物学的療法 (薬草製剤、エッセンシャルオイル)

Mind-Body Therapy Definition 心身療法の定義

These interventions focus on the interactions among the brain, mind, body, and behaviors and on the powerful ways in which emotional, mental, social, spiritual, and behavioral factors impact health (NCCAM, 2009)

「人間の、脳、心、身体、行動の相互作用に焦点を向けて、いかに、人間の情緒的、精神的、霊的、社会的、行動的要因が健康に強く影響するかを重視する介入方法」
(国立補完代替医療センター、2009)

Mind-Body Therapies

心身療法

- ◆ Imagery
- ◆ Hypnosis
- ◆ Music*
- ◆ Yoga
- ◆ Biofeedback
- ◆ Meditation*
- ◆ Prayer
- ◆ Journaling
- ◆ Story telling
- ◆ Animal-assisted therapy
- ◆ イメージ療法
- ◆ 催眠療法
- ◆ 音楽療法*
- ◆ ヨーガ
- ◆ バイオフィードバック
- ◆ 瞑想療法*
- ◆ 祈り
- ◆ 日誌療法
- ◆ 物語療法(ストーリー・テリング)
- ◆ 動物療法(アニマルセラピー)

Music

音楽療法



- ◆ Many types (classical, country western, folk, Asian, rock, new age)
- ◆ Challenges
 - Selecting pieces that fit the patient's preferences and not what nurse likes
 - Fitting it with goal of therapy
- ◆ 多様な種類: クラシック、カントリーウエスタン、フォーク、アジア音楽、ロック、ニューエイジ
- ◆ 課題:
 - 看護師の好みではなく、患者の好みに合う音楽作品・楽曲の選択
 - 治療目的との調和

Meditation

瞑想療法



- ◆ Definition: any activity that keeps the person's attention anchored in the present moment
- ◆ Challenges
 - Persons may view it as part of a religious belief system
 - Not appropriate for highly anxious persons
- ◆ 定義: どのようなものであれ、人間の注意・意識を現在の瞬間に固定し続ける活動
- ◆ 課題:
 - 宗教の信念体系の一部であると思なされる傾向
 - 過度な不安感を持つ患者には適さない

Energy Therapies

エネルギー療法

- ◆ Goal: aim at promoting harmony or balance in the whole body at the physical, emotional, mental, and spiritual levels
- ◆ Two types of energy:
 - Veritable (employs mechanical vibrations or electromagnetic forces)
 - Putative (humans possess a subtle form of energy that flows throughout the body and surrounds the body)
- ◆ 目的: 人間の体全体、身体的、感情的、精神的、そして霊的レベルに於ける調和とバランスの促進
- ◆ 2つの種類:
 - 確定(物理的振動ないし、電磁気力の使用)
 - 推定(人間の身体を貫いて流れ、身体を取り囲むエネルギー)

Healing Touch

ヒーリング・タッチ療法

- ◆ Complementary therapy that uses gentle touch and energy-based techniques to influence and support the human energy system within the body (energy centers) and surrounding the body (energy fields) (Umbriet, 2006)
- ◆ やさしく触れることによって、人間の身体の中やその周囲を流れるエネルギー全体に影響を及ぼし、その流れを良くする補完療法。身体は、エネルギー・センターで、体の周囲は、エネルギーの働く場であると考ええる。(Umbriet, 2006)

Types of Healing Touch

ヒーリング・タッチの種類

- ◆ **Full Body**
 - Basic healing touch
 - Magnetic clearing
 - Chakra connection
 - Chakra spread
- ◆ **Localized**
 - Energetic ultrasound
 - Mind clearing
 - Pain drain
 - Wound sealing
- ◆ **体の全体へ**
 - 基本となるヒーリング・タッチ
 - 磁気による浄化
 - チャクラとの結合
 - チャクラの拡散
- ◆ **体の部分へ**
 - エネルギー超音波
 - 心の浄化
 - 痛みの除去
 - 傷口の封印

Healing Touch Challenges

ヒーリング・タッチへの課題

- ◆ Much skepticism surrounds use
- ◆ Good outcome measurements (SQUID, Kirilian photography)
- ◆ Certification
- ◆ Developing new research designs
- ◆ 使用にまつわる大きな疑念
- ◆ 良い測定指標 (超伝導量子干渉計、キリリアン写真)
- ◆ 証明書
- ◆ 新しい研究デザインの開発

Acupressure

指圧

- ◆ An ancient healing art that uses the fingers to press certain points on the body (related to the flow of energy through the meridians) to stimulate the body's self-curative abilities (Weiss, 2006)
- ◆ からだの自然治癒力を高めるために、身体の適切な部位を指で圧迫する(経絡に沿ったエネルギーの流れに関連)古来のヒーリング技術 (Weiss, 2006)



Acupressure Challenges

指圧への課題

- ◆ Amount of knowledge about TCM needed before using acupressure
- ◆ Knowing the exact placement of the fingers or bands/bracelets
- ◆ 指圧を使用する前に必要な、伝統的中国医学についての知識量
- ◆ 指やバンド、ブレスレットの的確な部位の知識をもつこと



Body-based and Manipulative Therapies

身体&手技療法

- ◆ Chiropractic and osteopathy
- ◆ Tui Na
- ◆ Rolwing
- ◆ Trager body work,
- ◆ Tai Chi*
- ◆ Massage (many types)*
- ◆ カイロプラクティックや整骨療法
- ◆ ツイナ
- ◆ ロルフィン
- ◆ トレガ・ボディワーク
- ◆ 太極拳*
- ◆ マッサージ (様々なタイプがある)*

Tai Chi

太極拳

- ◆ Definition: series of fluid, continuous, graceful, dance-like postures and performances of movements termed *forms*
- ◆ Challenges
 - Longitudinal studies
 - Modification to fit patient's abilities
 - Skill level of teacher/master
- ◆ 定義: 流動的、連続的で優美な、一連のダンスのような構えと、フォームと呼ばれる動作
- ◆ 課題
 - 縦断研究
 - 患者の能力に合わせた修正
 - 先生/指導者の技術レベル



Massage マッサージ

- ◆ Many types: Swedish, deep muscle, Shiatsu
- ◆ Areas massaged: entire body, back, shoulders, feet, hands
- ◆ Challenge
 - Working with non-professional therapists
- ◆ 様々なタイプ: スウェーデン式、深部筋肉のマッサージ、指圧
- ◆ マッサージの範囲: 全身、背中、肩、足、手
- ◆ 課題
 - 専門家ではないセラピストとの仕事



Biologically-based Therapies 生物学的療法

- ◆ Includes herbal preparations, food additives, essential oils, and products such as shark cartilage
- ◆ Most widely used of NCCAM categories
- ◆ 薬草製剤、食品添加物、エッセンシャルオイル、サメ軟骨のような製品が含まれる
- ◆ 国立補完代替医療センターカテゴリーの中で、最も広く使われている

Herbal Preparations 薬草製剤

- ◆ Differences exist in the use of herbs across health systems and countries
- ◆ Challenges:
 - Assessing if patient is using herbal preparations
 - Drug interactions
 - Comparing outcomes across systems of care
- ◆ ヘルスシステムや国々によって、薬草の使用方法には違いがある
- ◆ 課題:
 - 患者が薬草製剤を使っているかアセスメントすること
 - 薬物相互作用
 - ケアシステム全体の成果を比較すること

Aromatherapy アロマセラピー

- ◆ Definition: use of essential oils from plants for therapeutic purposes
- ◆ Challenges:
 - Knowing both commonly used and official name
 - Determining if patient has aversions
 - Informing persons that scented products and essential oils differ
- ◆ 定義: セラピーの目的で植物のエッセンシャルオイルを使用すること
- ◆ 課題
 - 使用されている一般名と学名を認識すること
 - 患者に嫌悪感がないかどうか見極めること
 - 香りをつけた製品とエッセンシャルオイルとの違いについて情報を提供すること



Challenges

- ◆ Determining level of knowledge nurse needs to be able to administer a therapy in a safe manner
- ◆ Making an adequate assessment
- ◆ Selecting a therapy that fits the patient's preferences
- ◆ 知識レベルを決めることは、看護師が安全な方法での実践を可能にするために必要である
- ◆ 適切なアセスメントを行うこと
- ◆ 患者の好みに合った療法を選択すること

Challenges

- ◆ Determining the scientific basis for a therapy
- ◆ Developing guidelines for working with non-professionals
- ◆ 療法には科学的な基盤を置くこと
- ◆ 専門家でないセラピストと共に働くためのガイドラインを作成すること